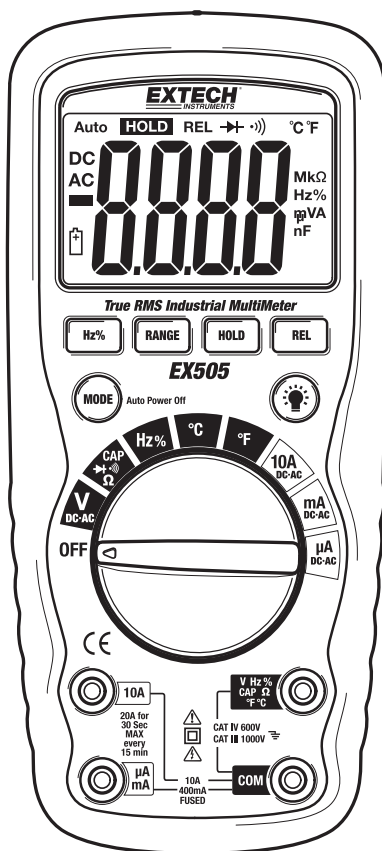


自動範囲調整のRMSマルチメーター

Extech EX505



CE

Extech EX505 真の RMS 自動範囲調節マルチメーターをご購入頂きありがとうございます。本測定器は AC/DC 電圧、AC/DC 電流、抵抗、電気容量、周波数、ダイオード・テストと導通に加えサーモカップル温度を測定する。本品は防水加工を特徴とし、過酷な使用に耐えうるよう頑丈に設計されています。本製品は完全な検品と校正を行って出荷しておりますので、適切にご利用頂ければ長年に渡る信頼できる測定が可能です。

安全性



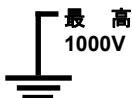
警告

この標識は隣接する他の標識や端子又は操作している装置に現れると操作者は怪我や測定器の故障を防ぐ為に取扱説明書の説明を読まなければならない。

この警告標識は回避しなければ死や大怪我を招く危険な状態になることを示す。

注意

この注意標識は回避しなければ製品の故障を招く危険な状態になることを示す。



この標識はこのように示された端子は電圧が 1000VAC 又は VDC を超える接地端子に関して電気回路に接続してはならないとユーザーに忠告する。



この標識は 1 つまたはそれ以上の隣り合う端子を通常の使用で範囲に関連して特に危険な電圧にさらされると識別する。安全の為に端子に電圧を印加している時は測定器も試験導線も触れてはならない。



この標識は装置は二重絶縁又は強化絶縁によって至る場所が保護されていることを示す。

IEC1010 の過電圧装置カテゴリ

過電圧カテゴリ I

過電圧カテゴリ I の装置は過渡の過電圧を適切な低水準に制限する為の測定をする回路に接続する為の物である。

注 - 実例は保護された電子回路など。

過電圧カテゴリ II

過電圧カテゴリ II の装置は固定された設備から供給される為のエネルギー消費装置である。

注 - 実例は家事やオフィス、研究所の電気器具など。

過電圧カテゴリ III

過電圧カテゴリ III の装置は固定された設備の中にある装置である。

注 - 実例は固定された設備内のスイッチや固定された設備に常設の工業用の機器など。

過電圧カテゴリ IV

過電圧カテゴリ IV の装置は設備設定の為に使用する物である。

注 - 実例は電力量計や一次の過電流保護装置など。

注意事項

- 本測定器の不適正使用は故障や感電、怪我或いは死亡のを引き起こす可能性がある。測定器の操作の前に本ユーザー・マニュアルをよく読むこと。
- 電池やフューズを交換する前には必ず試験導線を外しておく。
- 測定器を操作する前には試験導線と測定器その物のコンディションを検査する。使用前に故障箇所は修理或いは交換する。
- 25 VAC rms 或いは 35 VDC 以上の電圧を測定する場合は細心の注意を払う。このような電圧では感電の危険がある。
- 警告！ 本品は A クラスの装置である。本装置は住宅地では障害を起こす可能性がある；そのような場合、操作者は適正に測定を遂行しなければならない。
- ダイオードや抵抗、導通試験を行う前に必ずテスト下の装置の蓄電器を放電し電源を取り外す。
- 電源コンセントの電圧を調べるのは埋め込まれた電気接点への接続が不確かである場合難しく誤解を招く可能性がある。その他の方法で端子に「電気が流れて」いないことを確かめなければならない。
- 装置を本来の仕様以外で使った場合装置の保護機能は正常に機能しないことがある。
- 本装置は玩具ではなく子どもの手の届かない所に置く。本装置は子どもが飲み込む恐れのある小さな部品や危険物を含む。子どもが何かを誤飲した場合は直ちに医師に相談する。
- 子どもの傍にいない時に電池や梱包材を置いておいてはいけない；子どもがそれらで遊んだ場合に危険を及ぼす可能性がある。
- 本装置を長期間保管する場合は漏電を防ぐ為に電池を取り外すこと。
- 使用期限切れの電池や損傷した電池は肌に危険を及ぼす可能性がある。そのような場合は適切な手袋を使用する。
- 電池が短絡していないか確認する。電池を火気に廃棄してはならない。

安全のしおり

本測定器は安全にご使用頂けるよう設計されていますが、慎重に操作してください。下記に挙げた規定は安全な操作の為に必ず守ってください。

1. 仕様の最大値を上回る電圧や電流を測定器に**決して**加えてはならない:

入力保護限度	
作用	最大入力
V DC 又は V AC	1000VDC/AC rms
mA AC/DC	400mA AC/DC
A AC/DC	10A AC/DC (20A 30 秒間)
周波数、抵抗、電気容量、ダイオード・テスト、導通、温度	600VDC/AC rms

2. 高電圧で作業する場合、**細心の注意を払う**。
3. 接地端子上の” COM” 入力ジャックの電圧が 600V を超えている場合は電圧を測定しては**ならない**。
4. 機能スイッチが電流、抵抗又はダイオード・モードになっている間は測定器のリード線を**決して**電源につないで**ならない**。そのような行為は測定器を壊す可能性がある。
5. 抵抗或いはダイオード・テストを行う際は**必ず**電力供給源のフィルター蓄電器を放電し電源を切る。
6. フューズや電池を交換する為に蓋を開ける前に**必ず**電源をオフにしテスト・リードを外す。
7. 背面の蓋や電池やフューズの蓋がしっかりと閉められていない場合は**決して**測定器を使用しては**ならない**。
8. 装置を本来の仕様以外で使った場合装置の保護機能は正常に機能しないことがある。

-
- The diagram shows the front panel of the EX505 Industrial Multimeter. The components are numbered as follows:
- 1: DC/AC selector switch
 - 2: LCD display
 - 3: RANGE button
 - 4: MODE button
 - 5: OFF button
 - 6: 10A input terminal
 - 7: COM input terminal
 - 8: 200mA/20A input terminal
 - 9: Temperature unit selector (°C/°F)
 - 10: REL button
 - 11: HOLD button

- Auto **HOLD** REL $\rightarrow$ $\rightarrow$ $\rightarrow$ $\rightarrow$ °C °F
- DC AC
-
- +
- MkΩ
Hz%
VVA
nF

操作説明

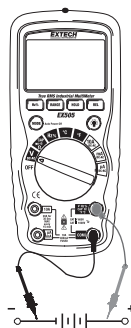
警告： 感電死のリスク。AC と DC 両方の高電圧回路は非常に危険であり、細心の注意を払って測定しなければならない。

1. 測定器を使用しない場合は必ず機能スイッチを**オフ (OFF)** の位置にしておく。
2. 測定中にディスプレイに “OL” と現れた場合、値が選択した範囲を超えている。より高い範囲に変更する。

DC 電圧測定

注意： 回路のモーターが ON または OFF しようとしている場合は DC 電圧を測定してはならない。電圧の大幅な急上昇は測定器の故障につながる可能性がある。

1. 機能スイッチを **V** の位置に設定する。
2. モード (MODE) ボタンを押し DC を選択する。(必要な場合)
3. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の **COM** ジャックに挿入する。
赤の試験導線バナナプラグを陽極の **V** ジャックに挿入する。
4. 黒の試験プローブの先端を回路の陰極側に当てる。
赤の試験プローブの先端を回路の陽極側に当てる。
5. ディスプレイの電圧を読み取る。

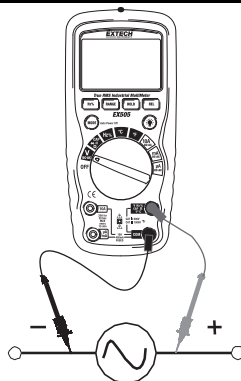


AC 電圧(周波数、負荷サイクル)測定

警告： 感電死のリスク。電気器具用の 240V コンセントの内側の電流が流れている部品に接触するには接触部分はコンセントに深く埋め込まれているのでプローブの先端は長さが十分ではないかもしれない。結果としてソケットに実際には電圧があるときに読取は 0 と現れるかもしれない。電圧がないと見なす前にプローブの先端がソケットの内側の金属に接触しているか確かめること。

注意： 回路のモーターが ON または OFF しようとしている場合は AC 電圧を測定してはならない。電圧の大幅な急上昇は測定器の故障につながる可能性がある。

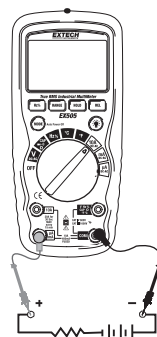
1. 機能スイッチを **V** の位置に設定する。
2. モード (MODE) ボタンを押し AC を選択する。(必要な場合)
3. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の **COM** ジャックに挿入する。
赤の試験導線バナナプラグを陽極の **V** ジャックに挿入する。
4. 黒の試験プローブの先端を回路の電荷を帯びていない側に当てる。
赤の試験プローブの先端を回路の “熱い” 側に当てる。
5. ディスプレイの電圧を読み取る。
6. **HZ/%** ボタンを押し “Hz” を表示する。
7. ディスプレイの周波数を読み取る。
8. **HZ/%** ボタンを再度押し “%” を表示する。
9. ディスプレイの負荷サイクルの % を読み取る。



DC 電流測定

注意: 20 アンペアの電流測定は 30 秒以上行ってもいけない。30 秒を超えると測定器が故障したり試験導線が損傷する可能性がある。

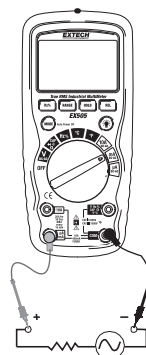
1. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の **COM** ジャックに挿入する。
2. 4000 μ A までの電流測定には機能スイッチを μ A の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを μ A/mA ジャックに挿入する。
3. 400mA DC までの電流測定には機能スイッチを **mA** の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを μ A/mA ジャックに挿入する。
4. 10A DC までの電流測定には機能スイッチを **10A** の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを **10A** ジャックに挿入する。
5. モード (MODE) ボタンを押しディスプレイに“DC”と表示する。
6. テスト下の回路から電力を外し、電流を測定したい箇所の回路を開く。
7. 黒の試験プローブの先端を回路の陰極側に当てる。
赤の試験プローブの先端を回路の陽極側に当てる。
8. 回路に電力を入れる。
9. ディスプレイの電流を読み取る。



AC 電流(周波数、負荷サイクル)測定

注意: 20 アンペアの電流測定は 30 秒以上行ってもいけない。30 秒を超えると測定器が故障したり試験導線が損傷する可能性がある。

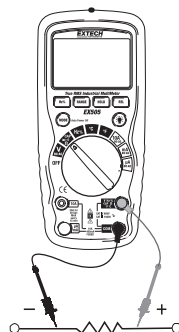
1. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の **COM** ジャックに挿入する。
2. 4000 μ A AC までの電流測定には機能スイッチを μ A の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを μ A/mA ジャックに挿入する。
3. 400mA AC までの電流測定には機能スイッチを **mA** の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを μ A/mA ジャックに挿入する。
4. 10A AC までの電流測定には機能スイッチを **10A** の位置に設定し赤の試験導線バナナプラグを **10A** ジャックに挿入する。
5. モード (MODE) ボタンを使いディスプレイに“AC”と表示する。
6. テスト下の回路から電力を外し、電流を測定したい箇所の回路を開く。
7. 黒の試験プローブの先端を回路の電荷を帯びていない側に当てる。
赤の試験プローブの先端を回路の“熱い”側に当てる。
8. 回路に電力を入れる。
9. ディスプレイの電流を読み取る。
10. Hz/%ボタンを押し“Hz”と表示する。
11. ディスプレイの周波数を読み取る。
12. Hz/%ボタンを再度押し“%”と表示する。
13. ディスプレイの%負荷サイクルを読み取る。
14. Hz/%ボタンを押し電流測定に戻る。



抵抗測定

警告: 電気ショックを避ける為に抵抗測定をする前にテスト下の装置の電源を切り全ての蓄電器を放電させる。電池を取り外しコードを抜いておく。

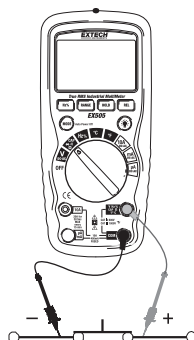
1. 機能スイッチを Ω CAP $\rightarrow \rightarrow$ の位置に設定する。
2. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の COM ジャックに挿入する。
赤の試験導線バナナプラグを陽極の Ω ジャックに挿入する。
3. モード (MODE) ボタンを使いディスプレイに “ Ω ” アイコンを表示する。
4. 試験プローブの先端をテスト下の回路又は部品に当てる。テスト下の部品の一端を未接続にしておくとも回路の残りの部分は抵抗読取を妨げないので最良である。
5. ディスプレイの抵抗を読み取る。



導通チェック

警告: 電気ショックを避ける為、電位差のある回路や電線の導通を決して測定してはならない。

1. 機能スイッチを Ω CAP $\rightarrow \rightarrow$ の位置に設定する。
2. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の COM ジャックに挿入する。
赤の試験導線バナナプラグを陽極の Ω ジャックに挿入する。
3. モード (MODE) ボタンを使いディスプレイに “ $\rightarrow \rightarrow$ ” と “ Ω ” アイコンを表示する。
4. 試験プローブの先端をチェックしたい回路又は電線に当てる。
5. 抵抗がおおよそ 100 Ω 以下の場合音響信号が鳴る。回路がオープンの場合ディスプレイに “OL” と表示される。



ダイオード・テスト

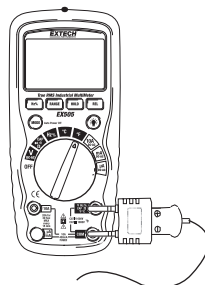
1. 機能スイッチを Ω CAP $\rightarrow \rightarrow$ の位置に設定する。
2. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の COM ジャックに挿入し赤の試験導線バナナプラグを陽極の V ジャックに挿入する。
3. モード (MODE) ボタンを使いディスプレイに $\rightarrow$ と V を表示する。
4. 試験プローブをテスト下のダイオードに当てる。順電圧は通常 Forward 0.400 から 0.700V を示す。逆電圧は “OL” と表示される。短絡した機器は 0V 近くを表示し開放装置は両極で “OL” と表示される。



温度測定

1. 機能スイッチを °F 又は °C の位置にする。
2. 温度プローブを入力ジャックに挿入し、極性を確かめる。
3. 温度プローブの頭部を温度を測りたい部分にあてる。読取が安定するまで（約 30 秒間）プローブをテスト下の部分に当て続ける。
4. ディスプレイの温度を読み取る。

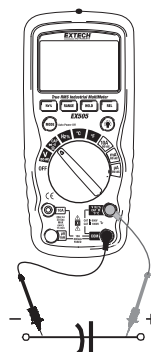
注：温度プローブ K タイプのミニ・コネクタと合う。ミニ・コネクタのバナナ・コネクタへのアダプターは入力バナナ・ジャックへの接続用に供給されている。



電気容量測定

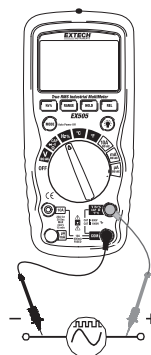
警告：電気ショックを避ける為に電気容量測定をする前にテスト下の装置の電源を切り全ての蓄電器を放電させる。電池を取り外しコードを抜いておく。

1. 機能スイッチを Ω CAP $\rightarrow$ の位置に設定する。
2. 黒の試験導線バナナプラグを陰極の COM ジャックに挿入する。
赤の試験導線バナナプラグを陽極の V ジャックに挿入する。
3. 機能 (MODE) ボタンを押しディスプレイに “nF” と表示する。
4. 試験導線をテストする蓄電器に当てる。
5. テストは 3 分か或いは大きな蓄電器を充電するのにそれ以上の時間が掛かるかもしれない。テストを終了する前に読取が落ち着くまで待つ。
6. ディスプレイの電気容量値を読み取る。



周波数/負荷サイクル測定(電子回路の)

1. 機能スイッチを “Hz/%” の位置に設定する。
2. Hz/% ボタンを押しディスプレイに “Hz” と表示する。
3. 黒の導線バナナプラグを陰極の COM ジャックに挿入し赤の試験導線バナナプラグを陽極の Hz ジャックに挿入する。
4. 試験プローブの先端をテスト下の回路に当てる。
5. ディスプレイの周波数を読み取る。
6. Hz/% ボタンを再度押しディスプレイに “%” と表示する。
7. ディスプレイの%負荷サイクルを読み取る。



周波数感度(電気を帯びた)

周波数感度は電圧や電流測定機能にしている間に機能を選択した時の範囲次第である。下記は“電気を帯びた”測定モードの通常の感度である。

範囲 (DC/AC)	感度	周波数幅
4V	$\geq 1.5V$ rms	5Hz~10kHz
40V, 400V	$\geq 10V$ rms	5Hz~20kHz
	$\geq 20V$ rms	5Hz~200kHz
1000V/1000V	$\geq 420V$ rms	50Hz~1kHz
400mA	$\geq 45mA$ rms	5Hz~5kHz
10A	$\geq 4A$ rms	5Hz~1kHz

自動範囲調整/手動範囲選択

測定器を最初にオンにする際に、自動的に自動範囲調節モードとなる。本モードは自動的に測定に最も良い範囲を選択する、一般的に大半の測定に最も適したモードである。測定に要求される状況によっては下記の手順で範囲を手動で選択する：

1. 範囲 (RANGE) キーを押す。ディスプレイの“**AUTO**”の標識が消える。
2. 範囲 (RANGE) キーを押し可能な範囲を出す。希望の範囲を出しディスプレイの小数点と単位に注意する。
3. 範囲 (RANGE) ボタンを 2 秒間押し続け手動範囲選択を終了する。

注：手動範囲選択は電気容量と周波数機能では使用できない。

相対モード

相対測定機能では保存した基準値の相対を測定できる。基準電圧、電流などは保存でき測定値と比較できる。表示された値は基準値と測定値の差である。

1. 操作説明書に書かれている通りに測定する。
2. REL ボタンを押しディスプレイの読取値を保存（ゼロ）するとディスプレイに“REL”標識が現れる。
3. ディスプレイは保存した値と測定値の差を表示する。
4. REL ボタンを押し相対モードを終了する。

注：相対モードは周波数機能では作動しない。

ディスプレイのバックライト

バックライト  ボタンを押しディスプレイのバックライトをオン又はオフを切り替える。

保持

保持機能はディスプレイの読取を凍結する。保持 (HOLD) キーを短く押し保持機能を起動したり終了したりする。

自動電源オフ

自動電源オフ機能は 30 分後に測定器の電源を切る。自動電源オフ機能を無効にするにはモード (MODE) ボタンを押し下げ測定器の電源を入れる。

低電池

電池が少なくなると  標識がディスプレイに現れる。この標識が現れると電池を交換する。

メンテナンス

警告: 電気ショックを避ける為、背面の蓋や電池、フューズを取り外す前に試験導線を電源から外す。

警告: 電気ショックを避ける為、電池やフューズの蓋がしっかりと閉められていない場合は測定器を操作してはならない。

本マルチ・メーターは下記の注意事項に従った場合長年に渡る信頼できる測定ができるよう設計されている:

1. **測定器は湿気厳禁。** 濡れた場合は水分を拭き取る。
2. **測定器は常温で使用し保管する。** 過度な温度は電子部品の寿命を縮めプラスチック部品を曲げたり溶かしたりする可能性がある。
3. **測定器は丁寧に注意深く扱う。** 落下は電子部品やケースの破損の原因となる。
4. **測定器は清潔に保つ。** ケースを時々湿った布で拭く。化学薬品や洗浄溶剤、研磨剤を使ってはならない。
5. **推奨されるサイズとタイプの新しい電池のみ使う。** 古い或いは弱くなった電池を取り除き漏電し装置が壊れるのを防ぐ。
6. **装置を長期間保存する場合、損傷を防ぐ為に電池は取り出しておく。**

電池の装着

警告: 電気ショックを避ける為、電池の蓋を外す前に試験導線を電源から外す。

1. 測定器の電源を切り測定器から試験導線を外す。
2. プラスのスクリュードライバーを使い2つのねじ（B）を外し背面の電池の蓋を開ける。
3. 正しい電極に注意しながら電池をホルダーに挿入する。
4. 電池の蓋を元の場所に戻す。ねじでしっかりと閉める。

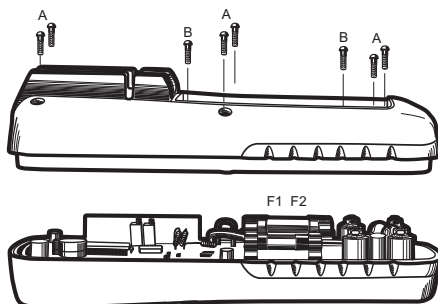


皆さんはエンドユーザーであるため、法的（EU 電池条例）により使用済み電池の返還を求められます；**家庭のごみと一緒に捨てることは禁止されています！**使用済み電池/蓄電池は皆さんの地域社会の集積ポイントまたは電池/蓄電池の販売店にお引渡し頂くことができます。

処分: 装置の寿命後は装置の処分に関する規定に従い廃棄する。

警告: 電気ショックを避ける為、電池の蓋がしっかりと閉められていない場合は測定器を操作してはならない。

注: 測定器が正しく作動しない場合はフューズと電池がまだ使えるものか、適切に装着されているか確認する。



フューズの交換

警告: 電気ショックを避ける為、フューズの蓋を外す前に試験導線を電源から外す。

1. 測定器から試験導線を外す。
2. 電池の蓋（2つの”B”ねじ）と電池を取り外す。
3. 背面の蓋の6つの”A”ねじを外す。
4. フューズを丁寧に取り出し新しいフューズをホルダーに装着する。
5. 必ず適切なサイズと値（0.5A/1000V 400mA 範囲用の速断 [SIBA 70-172-40]、10A/1000V 20A 範囲用の速断[SIBA 50-199-06]）のフューズを使用する。
6. 背面の蓋を閉め、電池と電池の蓋を元に戻す。

警告: 電気ショックを避ける為、フューズの蓋がしっかりと閉められるまで測定器を操作してはならない。

機能	範囲	レゾリューション	精度
DC 電圧	400mV	0.1mV	$\pm (0.5\% \text{読取值} + 2 \text{桁})$
	4V	0.001V	$\pm (1.2\% \text{読取值} + 2 \text{桁})$
	40V	0.01V	
	400V	0.1V	
	1000V	1V	$\pm (1.5\% \text{読取值} + 10 \text{桁})$
AC 電圧	400mV	0.1mV	$\pm (2.0\% \text{読取值} + 10 \text{桁})$
	4V	0.001V	$\pm (2.0\% \text{読取值} + 5 \text{桁})$
	40V	0.01V	
	400V	0.1V	
	1000V	1V	$\pm (2.5\% \text{読取值} + 5 \text{桁})$
DC 電流	400 μ A	0.1 μ A	$\pm (1.0\% \text{読取值} + 3 \text{桁})$
	4000 μ A	1 μ A	$\pm (1.5\% \text{読取值} + 3 \text{桁})$
	40mA	0.01mA	
	400mA	0.1mA	
	10A	0.01A	$\pm (2.5\% \text{読取值} + 5 \text{桁})$
AC 電流	400 μ A	0.1 μ A	$\pm (2.5\% \text{読取值} + 10 \text{桁})$
	4000 μ A	1 μ A	$\pm (2.5\% \text{読取值} + 5 \text{桁})$
	40mA	0.01mA	
	400mA	0.1mA	
	10A	0.01A	$\pm (3.0\% \text{読取值} + 7 \text{桁})$

注: 精度は温度が 18°C から 28°C (65°F から 83°F) で相対湿度が 75% RH 以下に規定される。

機能	範囲	レゾリューション	精度
抵抗	400Ω	0.1Ω	± (1.2%読取値 + 4 桁)
	4kΩ	0.001kΩ	± (1.0%読取値 + 2 桁)
	40kΩ	0.01kΩ	± (1.2%読取値 + 2 桁)
	400kΩ	0.1kΩ	
	4MΩ	0.001MΩ	
	40MΩ	0.01MΩ	± (2.0%読取値 + 3 桁)
電気容量	4nF	0.001nF	± (5.0%読取値 + 0.5nF)
	40nF	0.01nF	± (5.0%読取値 + 7 桁)
	400nF	0.1nF	± (3.0%読取値 + 5 桁)
	4μF	0.001μF	
	40μF	0.01μF	
	100μF	0.1μF	± (5%読取値 + 5 桁)
周波数	5.999Hz	0.001Hz	± (1.5%読取値 + 1 桁)
	59.99Hz	0.01Hz	
	599.9Hz	0.1Hz	
	5.999kHz	0.001kHz	± (1.2%読取値 + 3 桁)
	59.99kHz	0.01kHz	
	599.9kHz	0.1kHz	
	5.999MHz	0.001MHz	± (1.5%読取値 + 4 桁)
	9.999mHz	0.001MHz	
	感度: 0.5V rms <500kHz; 3V rms >500kHz		
負荷サイクル	0.1 から 99.9%	0.1%	± (1.2%読取値 + 2 桁)
	パルス幅: 100μs から 100ms, 周波数: 5Hz から 50kHz		
温度 (K タイプ)	-4 から 382°F	0.1°<400 ・	± (3.0%読取値 + 5°C /9°F) (プローブの精度は含まない)
	-20 から 750°C	1° ≥ 400 ・	

注意点:

精度仕様は下記の 2 つの要素から成る:

- (% 読取) - これは測定回路の精度である。
- (+ 桁) - これはデジタル変換器へのアナログの精度である。

容器	二重成形、防水加工 (IP67)
衝撃 (落下テスト)	2 メートル (6.5 フィート)
ダイオード・テスト	通常 0.3mA のテスト電流、通常 1.5V DC 電圧の開放回路
導通チェック	抵抗が 100Ω (およそ) 以下の場合音響信号が鳴る、テスト電流<0.3mA
温度センサー	タイプ K のサーモカップルが必要
入カインピーダンス	10MΩ VDC と 10MΩ VAC
AC 反応	真の rms
ACV 帯域幅	40Hz から 400Hz
波高因子	500V までのフルスケールで ≤ 3、1000V で ≤ 1.5 近くを記述
ディスプレイ	4,000 カウント バックライト 液晶
範囲超過表示	“OL” と表示
自動電源オフ	30 分間 (およそ)
電極	自動 (陽極の表示なし); 陰極にはマイナス (-) 表示
測定率	1 秒に 2 回、通常
低電池表示	操作電圧が低くなると “  ” と表示される。
電池	1 本の 9 ボルト (NEDA 1604) 電池
フューズ	mA, μA 範囲; 0.5A/1000V セラミック速断フューズ (SIBA 7017240.0, 5) A 範囲; 10A/1000V セラミック速断フューズ (SIBA 5019906.10)
操作温度	5°C から 40°C (41°F から 104°F)
保管温度	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)
操作湿度	31°C (87°F) までで最高 80% 40°C (104°F) で 50% に激減
保管湿度	<80%
操作高度	最高 2000 メートル (7000 フィート)
重量	342g (0.753lb) (ケース含む)
寸法	182 x 82 x 55mm (7.2” x 3.2” x 2.2”)
安全性	本測定器は設備の設置用で、ユーザーは EN61010-1 と IEC61010-1 第 2 版 (2001) のカテゴリー IV 600V とカテゴリー III 1000V; の二重絶縁で守られている; 汚染度 2。本測定器はまた UL 61010-1 第 2 版 (2004)、CAN/CSA C22.2 No. 61010-1 第 2 版 (2004) と UL 61010B-2-031, 初版 (2003) に適合。
承認	UL CE
UL 規格認定取得済み	UL マークは本製品が読取の精度を評価されたことを示すものではない。

著作権 © 2015 FLIR Systems, Inc.

製品そのものやはいかなる部分的な形でも無断複写・複製を禁じる。

ISO-9001 認定

www.extech.com